

令和元年度 特別講習会（範教錬士研修会）報告

令和元年6月2日（日） 会場 小松市武道館弓道場

令和元年6月9日（日） 会場 加賀市武道館弓道場

（内容は2日、9日とも同様）

参加者数 6月2日 21名

6月9日 16名

内 容 (1) 2019年度 指導方針について説明・確認

①教本の内容（意味）の再度の確認

射法・射技の基本（p99～p103）

動作の注意点（p62～p64）の読み合わせ、質疑応答

②先般の柴田範士の指導内容の確認

昨年12月県範教錬士会と今年4月北陸3県範教錬士会の指導内容の確認

特に手の内について、矢番え動作について

③「弓返りしない人達への効果的な指導方法」、「早気の解消に向けた指導方法案」

などで意見交換

「弓返りしない人達への効果的な指導方法」については、初心のうちに手の内の働きを覚えさせる。

「早気の解消に向けた指導方法案」については、筋肉などの意識、骨格がはまって手の内ができていればもてないはずがないなど。

いずれも初心の内が大事

(2) 一手行射（審査の間合い）

番号の後ろから行う。

(3) グループディスカッション

「初心者教室での指導上の苦労話」、「講習会で受講生の人格・人権にどのように配慮しているか」などで意見交換

「初心者教室での指導上の苦労話」

・指導者が日によって違う。指導者の話し合いが必要。

・教室生が中々集まらない。定着しない。フォロー体制が必要。

・中学生には指導がよく伝わらないもどかしさ。

・モンスターペアレンツからの厳しい意見。 など

「講習会で受講生の人格・人権にどのように配慮しているか。」

・言葉使いに気をつける。お互いに納得のいく教え方。同じ目線に立つ。

・セクハラ、体を触るときは断ってから。

・発達障害の生徒に対して、情報収集して配慮することも必要。

・ピンポイントで言うのではなく、全体に対して指導する。 など

(4) 相互研修

